

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4077800110
法人名	社会福祉法人 大川医仁会
事業所名	グループホームあおぎり荘
所在地	福岡県久留米市城島町芦塚804番地3 (電話) 0942-62-2150

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	H21年 12月 3日	評価確定日	H22年 2月 4日

【情報提供票より】 (平成21年11月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年 12月 1日						
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人				
職員数	17 人	常勤	17人	非常勤	0人	常勤換算	17.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺	造り
	1階建ての	~

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	8,400 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成21年11月16日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	5 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.3 歳	最低	78 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	今村医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広大な敷地に立つ事業所は、同法人のデイサービスセンターと隣接し、落ち着いた和風の建物である。地域と合同で使用する菜園は、野菜の育ちが日々の話題になり、地域交流に繋がっている。地域の一員としての事業所は、保育園児から各世代へと幅広く交流し、文化行事や清掃活動等へ積極的に参加している。利用者の暮らしは穏やかで、散歩やドライブ等を楽しみながら、心身機能の維持に努めている。全職員は、利用者のその人らしい暮らしへの自己決定を尊重し、本人本位の開かれたケアの質の向上に熱意を持ち、一体となって日々取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はないが、よりよい事業所を目指し、全職員で前回の外部評価について話し合った。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、全職員で意見を出し合い、管理者等が中心となって集約している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的開催し、利用者の日々の暮らしぶりや外部評価の結果報告等、事業所の状況報告をしている。また、委員へ利用者の外出傾向時や避難訓練時において協力依頼する等、サービス向上に努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	意見箱を設置している。来訪時及び家族交流会にて家族等の意見を聴取するよう努め、適切に対応し、運営に反映させるよう努めている。また、家族等へ事業所以外の苦情に関する第三者相談窓口を説明し、玄関に掲示している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、清掃活動や地域行事へ参加し、保育園との交流や小学生の体験学習を受け入れている。また、事業所便りを地域で回覧し、事業所主催の秋祭りに地域住民の参加がある等、地域と交流することに積極的に努めている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念に「事業所は地域の一員です」と、地域密着型の視点が加わっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼やカンファレンス、勉強会時に理念の確認及び意識付けをし、全職員で共有している。言葉かけ、態度、記録等、理念の実践に向け、日々取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、清掃活動や地域行事へ参加し、保育園との交流や小学生の体験学習を受け入れている。また、事業所便りを地域で回覧し、事業所主催の秋祭りに地域住民の参加がある等、地域と交流することに積極的に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員で意見を出し合い、管理者等が中心となって集約している。前回評価での改善課題はないが、よりよい事業所を目指し、全職員で前回の外部評価について話し合った。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催し、利用者の日々の暮らしぶりや外部評価の結果報告等、事業所の状況報告をしている。また、利用者の外出傾向時や避難訓練時において協力依頼する等、サービス向上に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常的に行政と行き来し、報告や相談等を行っている。2ヶ月に1回、行政及び他事業所と交流会を行い、連携を図っている。また、行政の依頼で介護教室を開催している。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度について、一部職員は外部研修を受講し、他職員へはテキストやパンフレット等の資料をもとに伝達研修を行っている。家族等へは、来訪時に説明している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、事業所便りを発行している。2ヶ月に1回、手紙や写真を送付または手渡しし、家族来訪時等に暮らしぶりや健康状態等を報告している。緊急時には、電話連絡を行っている。金銭管理は、月1回、家族に領収書を手渡し、出納帳を明示して署名・押印をもらっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。来訪時及び家族交流会にて家族等の意見を聴取するよう努め、適切に対応し、運営に反映させるよう努めている。また、家族等へ事業所以外の苦情に関する第三者相談窓口を説明し、玄関に掲示している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	年2回、職員の個人面談を行い、勤務希望等を考慮し、働きやすい環境作りに努めている。引継ぎ期間を十分に設け、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用にあたっては公平性を持ち、性別や年齢等で排除しないようにしている。採用後は配置や教育等で差別はなく、スキルアップや資格取得が出来るよう勤務時間を調整する等配慮し、支援している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>職員は人権に関する外部研修に参加し、内部研修も行っている。テキスト・パンフレット・研修記録・報告書がある。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、外部研修の案内を全職員に周知し、研修参加を奨励している。受講記録を整備し、職員の希望を考慮して、研修を受ける機会の確保に努めている。また、月1回、内部研修を行い、全員で研修内容を共有できるよう取り組んでいる。テキスト・パンフレット・報告書がある。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者と職員は、地域の他事業所と交流会や研修を開催し、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に見学や病院訪問等を行い、なじみの関係がもてるよう家族等と相談しながら工夫している。やむを得ず即利用の場合、家族等に事業所へ足を運んでもらい、利用者が安心できるよう工夫している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<input type="checkbox"/> 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	裁縫や畑仕事等で、職員が知らない生活の知恵や技を利用者から教えてもらう場面がある。また、職員は利用者からねぎらいの言葉をかけてもらうことがある等、共に支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<input type="checkbox"/> 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の表情や言動から本人の思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は、家族等から情報を得て、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<input type="checkbox"/> チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は、本人・家族の意見を考慮し、カンファレンスで話し合っって個別具体的な介護計画を作成している。本人、家族に説明し、了承の署名・押印がある。		
19	39	<input type="checkbox"/> 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回、また利用者の状態変化時に介護計画を見直している。独自に作成したモニタリングシートを用い、6ヶ月毎に家族の意見や気づきを聴取し、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<input type="checkbox"/> 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎、往診の受入れ等、柔軟に支援している。利用者が入院した際は、本人、家族、医療関係者と連携を図り、早期退院に向けて支援している。利用者の身体機能低下防止に、隣接するデイサービスの理学療法士等のアドバイスをもらう事もある。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を尊重し、馴染みのかかりつけ医や希望する医療機関での受診を支援している。通院方法、情報の伝達については、家族や本人と話し合っている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた指針があり、利用開始時や必要時に家族等へ説明している。本人や家族の意向を大切にし、家族、主治医と連携を図り、全職員で方針を共有し、対応している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	内部研修等で職員の意識化を図り、声かけや態度等、日常的に利用者のプライバシーを損ねないように努めている。個人情報の取り扱いについても認識し、管理者は職員の関わり方の点検を行い、周知徹底している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、利用者一人ひとりの希望や状態に副ったスケジュールを立て、利用者本位の支援をしている。散歩や入浴希望等にも合わせられるよう配慮している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の準備をしている。職員は、介助や見守りをしながら、同じものを同じテーブルで食べ、食事を楽しむ雰囲気作りをしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>大まかな入浴時間の設定はあるが、曜日や時間等、利用者の希望に副って支援している。入浴拒否の場合は無理強いをせず、言葉かけやタイミングを計る等、工夫して入浴を楽しめるように支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>職員は利用者ができることを把握し、料理、洗濯物たたみ、掃除、畑仕事等、力を活かした役割の場面がある。また、習字、編み物等、楽しみごとや気晴らしの支援をし、利用者が張り合いや楽しみのある日々を過ごせるようにしている。</p>		
28	63	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天候や利用者の状況に配慮して、日常的に散歩や買い物をし、花見や外食等、利用者の希望に応じて外出の支援をしている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>居室や玄関は、施錠はしていない。リビングの死角にはミラーを、玄関にはチャイムを設置して見守り、運営推進会議の委員を通して、区長や消防署等へ声かけの協力をお願いしている。職員は連携して見守りをし、外出時には付き添っている。</p>		
30	73	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>マニュアルを作成している。避難訓練は、消防署及び地域住民等の参加協力を得て、隣接のデイサービスと合同で年2回、夜間想定で年4回実施している。職員は避難経路や消火器の使い方を熟知している。非常用食料、飲料水、備品を整備している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>全利用者の食事及び水分摂取量を記録し、健康管理を行っている。職員が作成した献立は、利用者の嗜好を考慮し、季節の食材を取り入れ栄養バランスに配慮している。献立の記録をもとに、定期的に母体法人の栄養士や必要に応じて医師から専門的なアドバイスやチェックを受けている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は、車椅子で移動しやすいよう家具の配置を工夫している。和室には炬燵や座椅子、ソファを設置し、利用者がゆっくり寛げるよう配慮している。利用者の作品や季節の花を飾り、利用者にとって不快と感じる音や光はない。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は、利用者の馴染みの寝具や家具、装飾品が持ち込まれている。家族写真等が飾られ、本人が自宅と同様に安心して過ごせるよう、家族と相談しながら工夫をしている。</p>		

※ は、重点項目。